

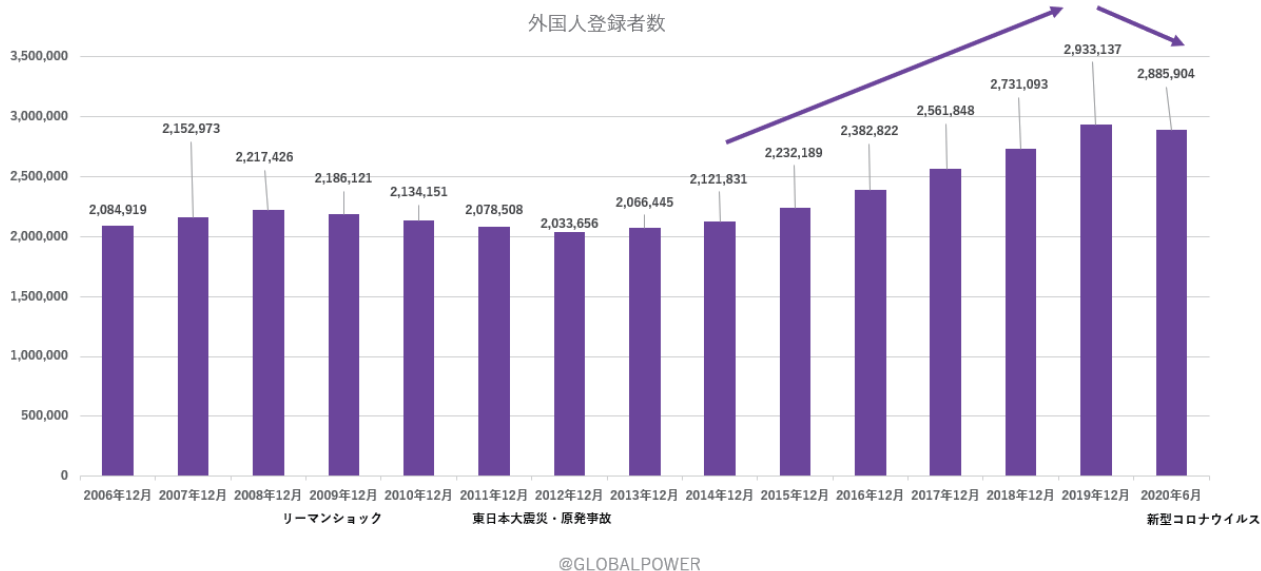
# もくじ

1 統計でみる在留外国人数	2
1-1 日本に住む外国人	
1-2 沖縄に住む外国人	
2 沖縄県在住外国人アンケート調査	6
2-1 調査目的	
2-2 実施概要	
2-3 回収結果	
2-4 回答者属性	7
2-5 調査結果	11
①日本語について	11
②日常生活全般について	15
③医療・保健などについて	17
④子育て・子どもの教育について	25
⑤仕事について	27
⑥地域社会との交流について	29
⑦防災について	30
⑧新型コロナウイルス(COVID-19)について	31
⑨最後にあなたが伝えたいこと	40
Q24【自由記述回答】	43
Q25【自由記述回答】	51
3 総務省改訂ポイントに基づいた調査結果	62
4 市町村アンケート調査	65
巻末資料：沖縄県在住アンケート調査表(日本語)	87

# 1 統計でみる在留外国人数

## 1-1 日本に住む外国人

### ①日本の在留外国人 全国の推移（2020年6月末）



出典:『日本に住む外国人の数は?日本で働く外国人の数は?日本に住む外国人まるごと解説~[2020年6月末/10月末 最新版]在留外国人統計より~』  
外国人雇用とマネジメントがわかる!グローバルパワーユニバーシティ (<https://university.globalpower.co.jp/>)

### ②出身エリア・出身国別ランキング（2020年6月末）

	地域・エリア	人数	構成比
1	アジア	2,424,534	84.01%
2	南米	275,171	9.54%
3	ヨーロッパ	78,990	2.74%
4	北米	73,585	2.55%
5	アフリカ	18,239	0.63%
6	オセアニア	14,738	0.51%
7	無国籍	647	0.02%

	国籍	人数	構成比
1	中国	786,830	27.26%
2	韓国	435,459	15.09%
3	ベトナム	420,415	14.57%
4	フィリピン	282,023	9.77%
5	ブラジル	211,178	7.32%
6	ネパール	95,367	3.30%
7	インドネシア	66,084	2.29%
8	台湾	59,934	2.08%
9	米国	57,214	1.98%
10	タイ	53,344	1.85%

出典:『日本に住む外国人の数は?日本で働く外国人の数は?日本に住む外国人まるごと解説~[2020年6月末/10月末 最新版]在留外国人統計より~』  
外国人雇用とマネジメントがわかる!グローバルパワーユニバーシティ (<https://university.globalpower.co.jp/>)

### ③地域別居住人数と都道府県別ランキング(2020年6月末)

地域・エリア	人数	構成比
北海道	568,665	19.7%
東北	1,243,638	43.1%
関東	493,677	17.1%
└─都三県	└1,167,791	└40.4%
北陸・甲信越	243,085	8.4%
東海	81,490	2.8%
関西	100,177	3.5%
中国	67,722	2.3%
四国	36,025	1.2%
九州	44,718	1.5%
沖縄	4,366	0.2%
不明・不詳	2,341	0.1%

	都道府県	人数	構成比
1	東京	568,665	19.7%
2	愛知	276,282	9.6%
3	大阪	253,303	8.8%
4	神奈川	235,369	8.2%
5	埼玉	196,537	6.8%
6	千葉	167,220	5.8%
7	兵庫	114,927	4.0%
8	静岡	100,237	3.5%
9	福岡	81,556	2.8%
10	茨城	70,806	2.5%

出典:『日本に住む外国人の数は?日本で働く外国人の数は?日本に住む外国人まるごと解説~[2020年6月末/10月末 最新版]在留外国人統計より~』

外国人雇用とマネジメントがわかる!グローバルパワーユニバーシティ (<https://university.globalpower.co.jp/>)

### ③在留資格別ランキング(2020年6月末)

	在留資格	人数	構成比	例
1	永住者	800,872	27.75%	日本在住で10年以上(例外もある)
2	技能実習(1号・2号・3号)	402,422	13.94%	日本で技術を学実習、建築現場や製造現場に多い
3	特別永住者	309,282	10.72%	第二次世界大戦中、日本国民とされた在日韓国・朝鮮・台湾人
4	技術・人文知識・国際業務	288,995	10.01%	オフィスシーンで見かける外国人
5	留学	280,273	9.71%	日本語学校、大学、専門学校の留学生
6	定住者	203,847	7.06%	日系人やインドシナ難民等
7	家族滞在	200,299	6.94%	留学生や働く外国人の配偶者等
8	日本人配偶者等	143,759	4.98%	日本人と結婚した外国人や子
9	特定活動	72,440	2.51%	ワーキングホリデー、EPA、就職活動中、46号等
10	永住者の配偶者等	42,207	1.46%	永住者の配偶者や子
	:			
	:			
17	特定技能(1号・2号)	5,950	0.21%	2019年に創設された単純労働領域の在留資格

出典:『日本に住む外国人の数は?日本で働く外国人の数は?日本に住む外国人まるごと解説~[2020年6月末/10月末 最新版]在留外国人統計より~』

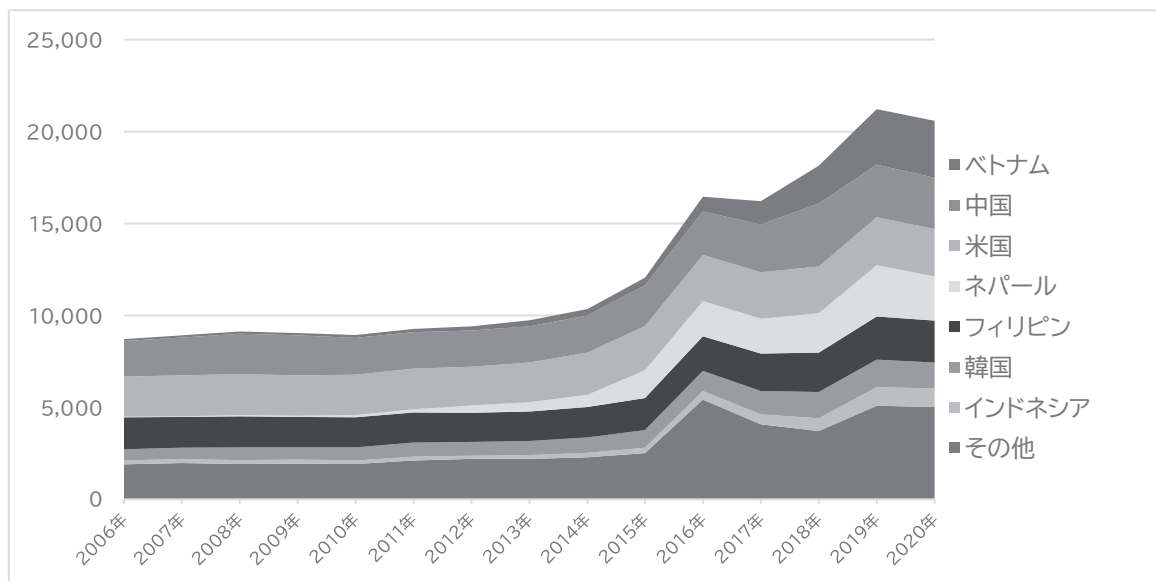
外国人雇用とマネジメントがわかる!グローバルパワーユニバーシティ (<https://university.globalpower.co.jp/>)

## 1-2 沖縄に住む外国人

※データに出てくる数字は、日本国籍を持っていないが、住民登録を行っている人の数です。日本国籍を取得した人や、在留資格がない人、または日米地位協定により在留資格を必要としない在日米軍の軍人及びその関係者や家族の数は含みません。

### ①沖縄県における在住外国人の推移 現在 20,591人(2020年6月末)

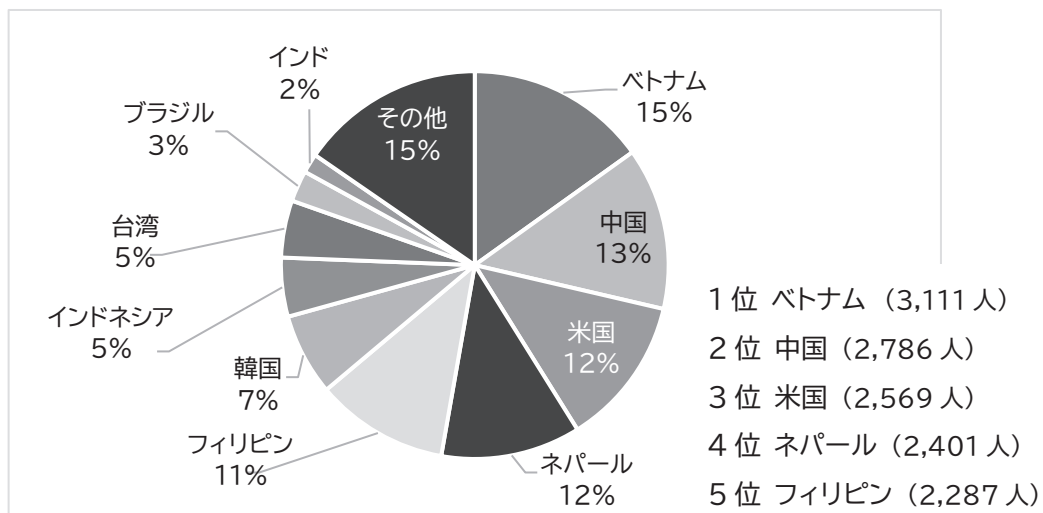
新型コロナウイルスの影響を受け、県内でも在住外国人は減少傾向にありますが、ベトナムやネパールをはじめ、東南アジアや南アジアの人々が高い割合をしめています。



(法務省 2006年12月末～2020年6月末)

### ②沖縄県における国籍別在住外国人数(2020年6月末)

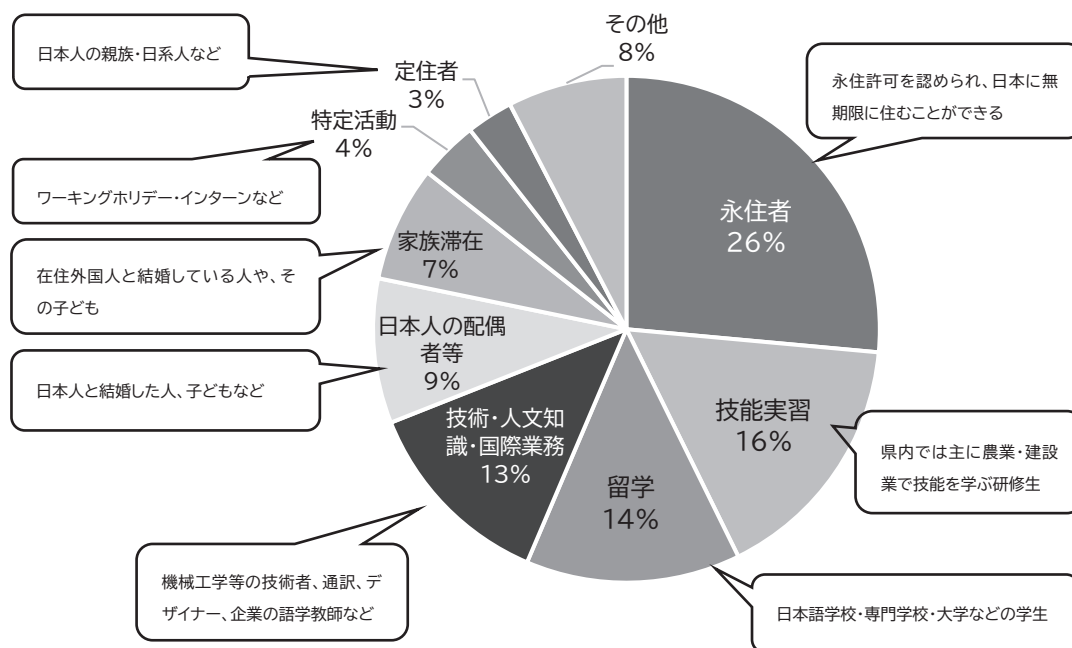
190以上の国と地域の人々が暮らしています。



(法務省 2020年6月末)

### ③ 沖縄県における在留資格別の外国人数(2020年6月末)

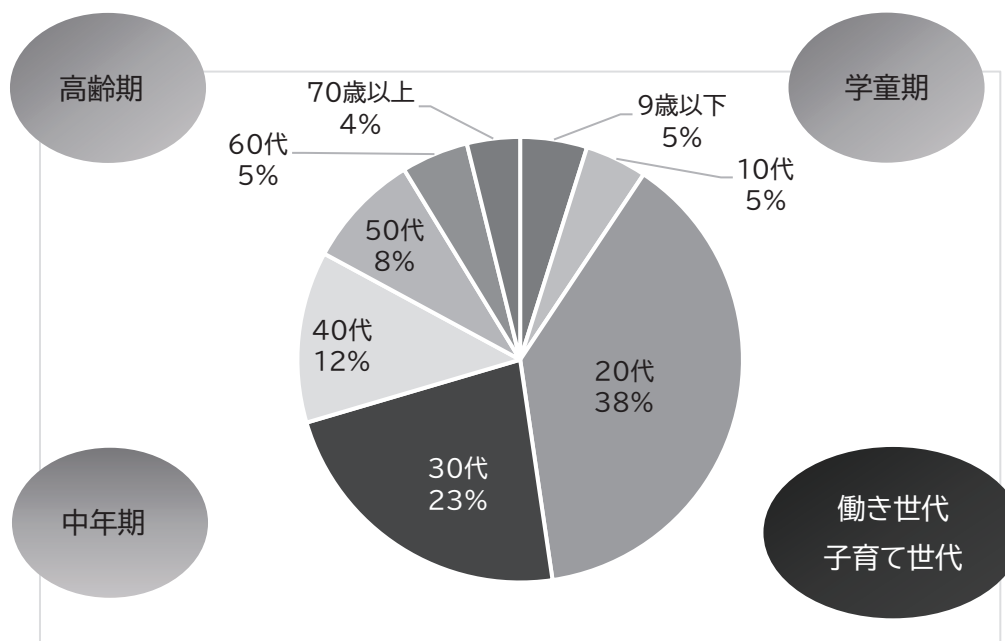
技術や学問を学ぶために来沖する外国人が増えています。



(法務省 2020年6月末)

### ④ 沖縄県における年齢別在住外国人数(2020年6月末)

働き世代や子育て世代が高い割合をしめています。



(法務省 2020年6月末)

## 2 沖縄県在住外国人アンケート調査

### 2-1 調査目的

在住外国人が安心、快適に生活できる「多文化共生社会」を構築するため、「おきなわ多文化共生推進指針(平成 21 年 3 月策定)」の改訂ならびに、総務省「地域における多文化生推進プラン(令和 2 年 9 月改訂)」に基づいた取り組みの促進を目的として、県内在住外国人の教育、医療、労働、生活等における問題、行政への要望等を把握するためのアンケート調査・分析を実施する。

### 2-2 実施概要

#### (1) 調査対象

県内各地域(離島含む)に在住する、満 20 歳以上の外国人

#### (2) 調査期間

2021 年 2 月 9 日(火)から、同年 3 月 7 日(日)まで

#### (3) 調査方法

①直接または郵送にて配布し、直接または返信封筒にて回収。②インターネットによる回答。

#### (4) アンケート調査票の使用言語

日本語(ルビ付き)、中国語、英語、スペイン語、タガログ語、タイ語、韓国語、ネパール語、ベトナム語、ミャンマー語、インドネシア語

調査票は「平成 29 年度沖縄県多文化共生推進調査事業」で使用した調査票を一部修正・翻訳して使用する。なお、内容検討にあたっては有識者会議を開催した。

### 2-3 回収結果

配布数は 4448 件、うち回収数は 1014 件で回収率は 22.8%となる。本調査は 1014 件の票による集計(未回答を含む)・分析を行う。

#### (1)集計・選択肢の表現について

回答率(各回答の百分比率)は少数第2位を四捨五入した。単数回答(SA)の百分率の合計は 100.0%であるが、四捨五入のため百分率比が 0.05%未満は 0 と示されているため、数値上、100.0%にならないことがある。

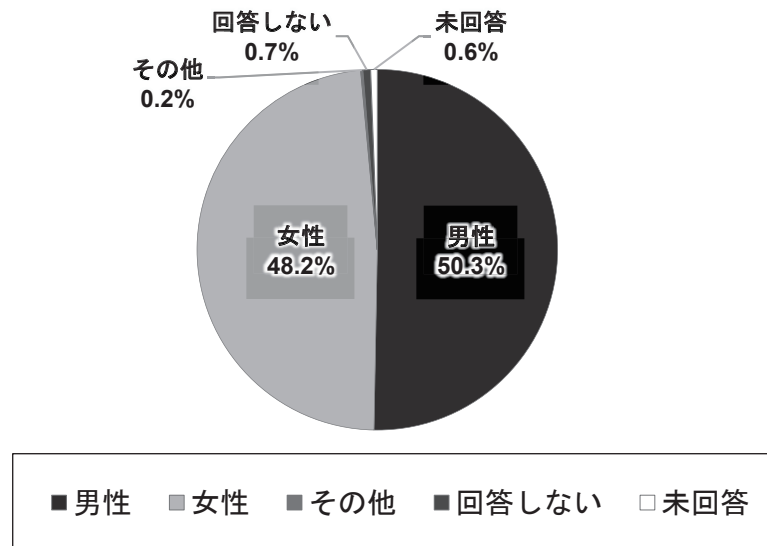
複数回答(MA)は回答者数を基数として算出しており、合計が 100.0%を上回ることがある。

分析の中で回答選択肢の表現の趣旨を損なわない範囲で語句を省略し、表現を簡略した場合がある。

## 2-4 回答者属性

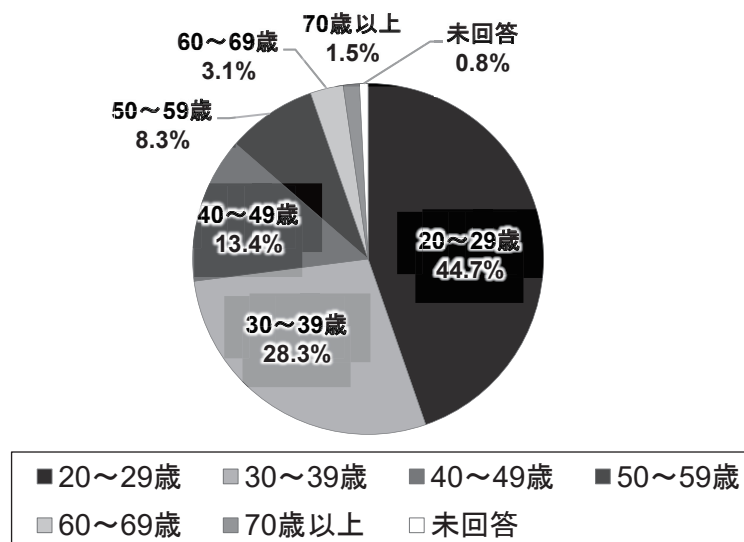
### (1)性別(F1)

「男性」(50.3%)「女性」(48.2%) (n=1014)



### (2)年齢(F2)

「20～29歳」(44.7%)と最も高い割合で回答されている。(n=1014)



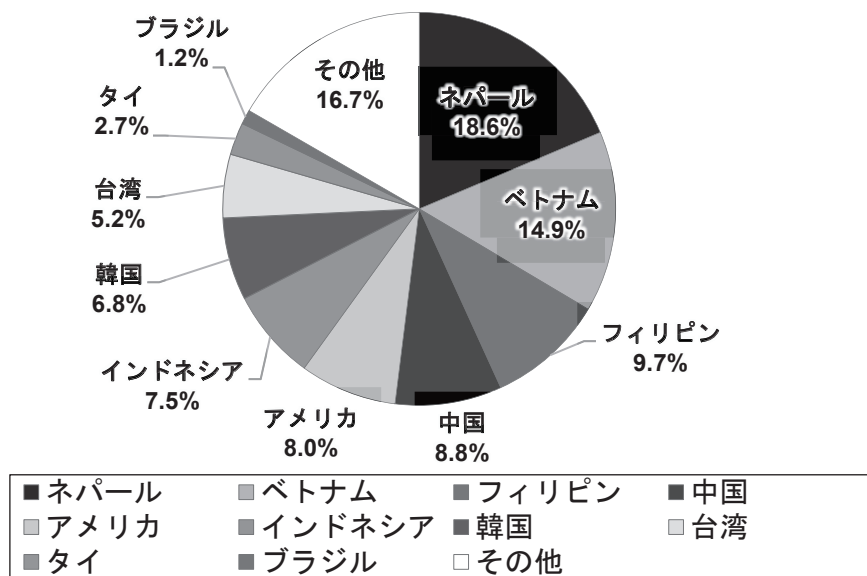
### (3)居住地(F3)

「那覇市」(33.9%)と最も高い割合で回答されている。(n=1014)

居住地	回答数	%	居住地	回答数	%
那覇市	344	33.9%	豊見城市	8	0.8%
宜野湾市	139	13.7%	読谷村	7	0.7%
恩納村	99	9.8%	宜野座村	4	0.4%
名護市	81	8.0%	南風原町	4	0.4%
沖縄市	59	5.8%	西原町	3	0.3%
南城市	55	5.4%	与那原町	3	0.3%
うるま市	35	3.5%	嘉手納町	2	0.2%
石垣市	28	2.8%	宮古島市	2	0.2%
糸満市	23	2.3%	本部町	1	0.1%
浦添市	21	2.1%	粟国村	1	0.1%
北谷町	15	1.5%	その他(沖縄のみ)	33	3.3%
八重瀬町	15	1.5%	未回答	32	3.2%

### (4)国籍(F4)

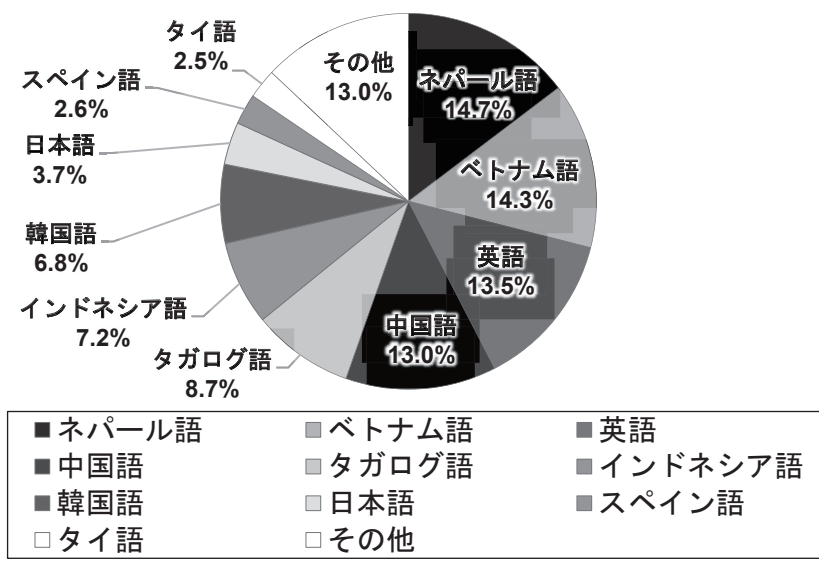
「ネパール」(18.6%)と最も高く回答されている。(n=1014)





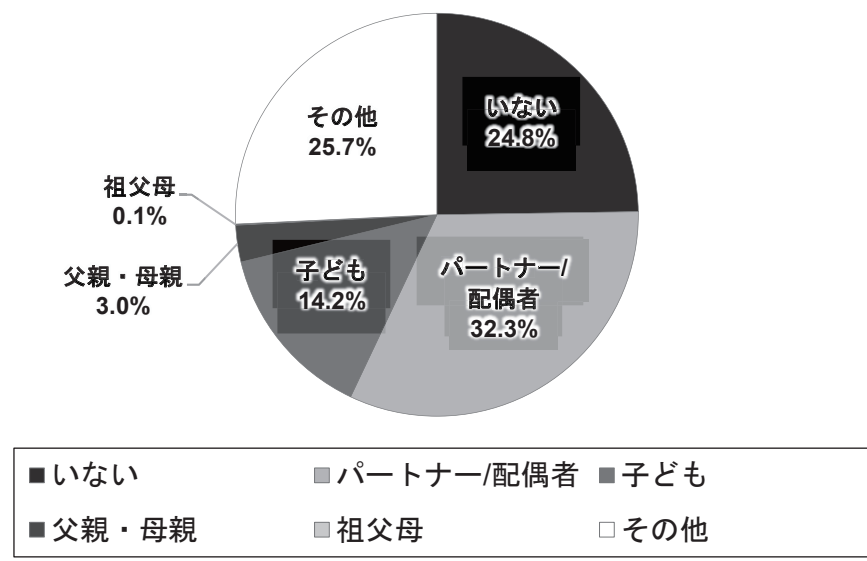
(5)母語(F5)

「ネパール語」(14.7%)と最も高く回答されている。(n=1014)



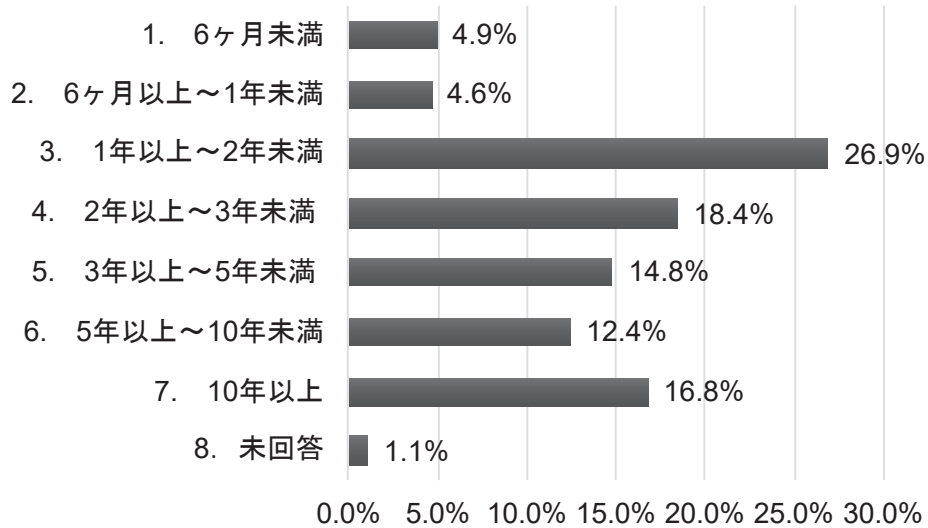
(6)家族構成(F6)

「パートナー・配偶者」(32.3%)と最も高く回答しており、同居人数については「同居人数2人」(34.1%)と最も高く回答されている。(n=1014)



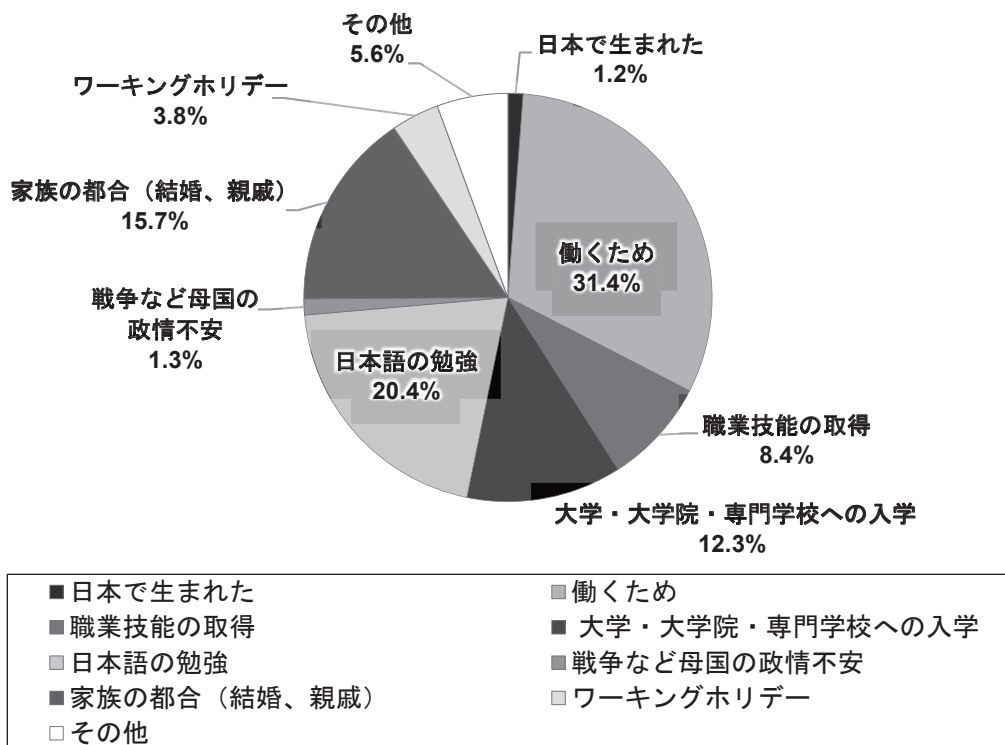
### (7)在住年数(Q1)

「1年以上～2年未満」(27.2%)と最も高く回答されている。(n=1014)



### (8)滞在理由(Q2)

「働くため」(31.4%)と最も高く回答されている。(n=1014)

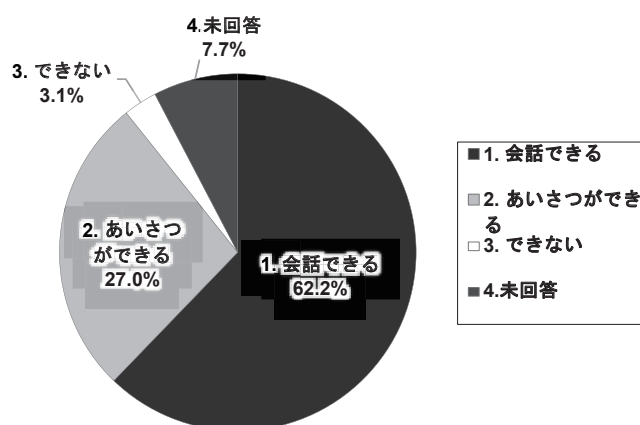


## 2-5 調査結果

### ①日本語について

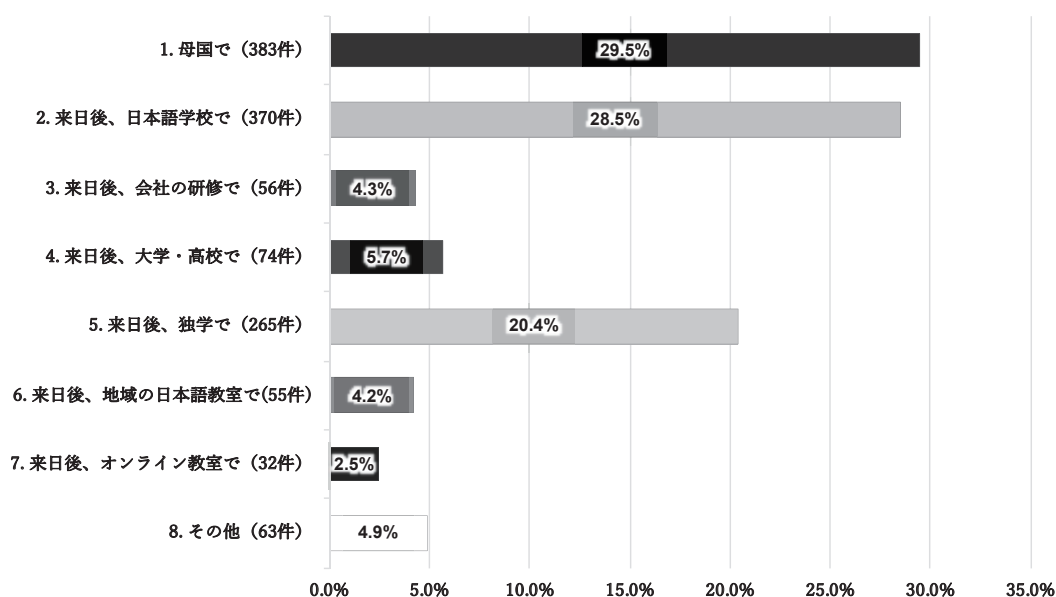
#### (1)日本語の会話能力(Q3) (1つに○)

日本語での会話はどの程度できますかとの質問に対し、「会話ができる」(62.2%)と回答された方が最も高く、次いで「あいさつができる」(27.0%)、「できない」(3.1%)、未回答(7.7%)となっている。(n=1014)



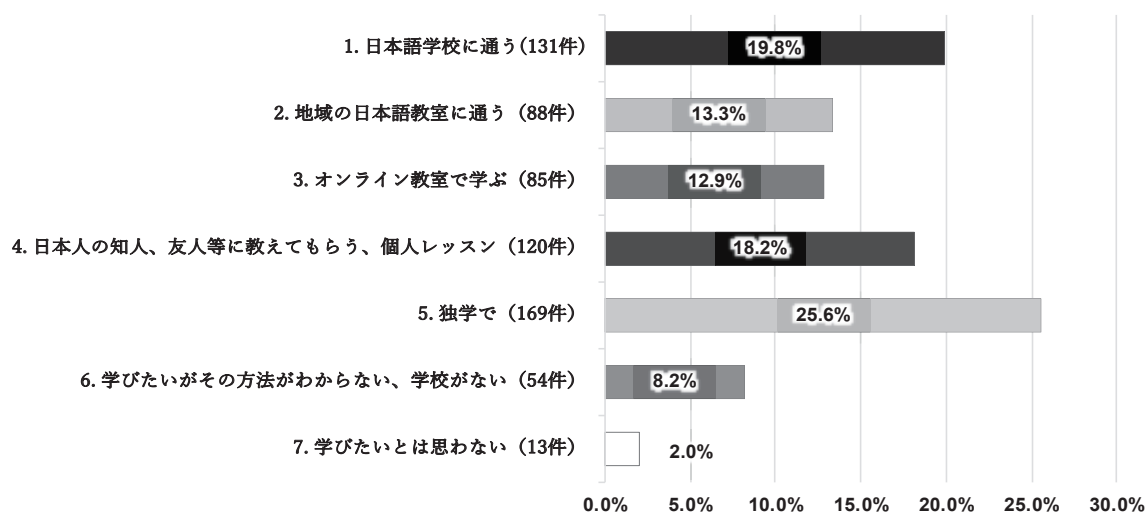
#### (2)日本語習得について(Q 3-1) (複数選択可)

Q3 の会話能力に関する設問で、「会話ができる」と回答された方に、Q3-1「日本語をどこで学びましたか」をお尋ねした結果、「母国で」(29.5%)と回答された方が最も高く、次いで「来日後、日本語学校で」(28.5%)、「来日後、独学で」(20.4%)となっている。(n=1014)



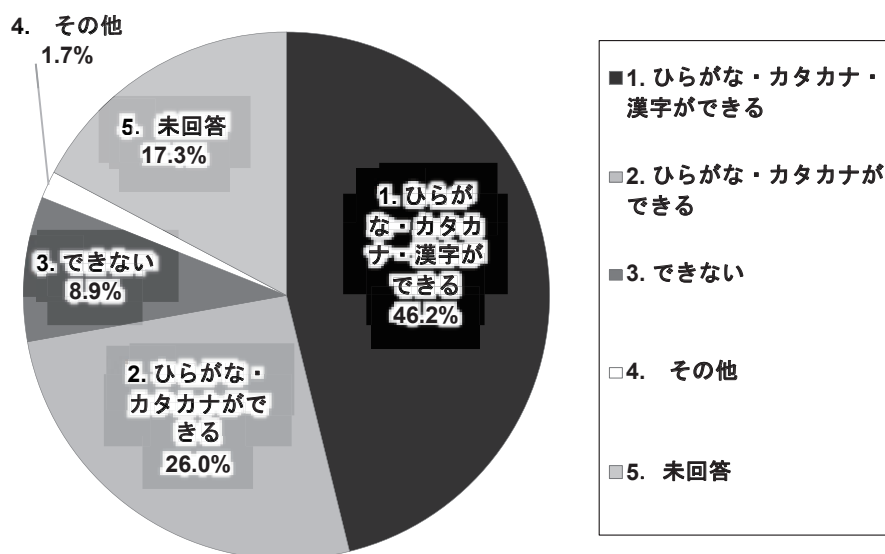
### (3) 希望する日本語習得方法について(Q3-2) (複数選択可)

Q3 の会話能力に関する設問で、「会話ができる」と回答された方に、Q3-2 をお尋ねした結果、「独学で」(25.6%)と回答された方が最も高く、次いで「日本語学校に通う」(19.8%)、「日本人の知人、友人等に教えてもらう、個人レッスン」(18.2%)となっている。(n=1014)



### (4) 日本語の読み書きについて(Q4) (1つに○)

「日本語での読み書きはどの程度できますか」との質問に対し、「ひらがな・カタカナ・漢字ができる」(46.2%)と回答された方が最も高く、次いで「ひらがな・カタカナができる」(26.0%)、「できない」(8.9%)、未回答(17.3%)となっている。(n=1014)



## (5)在住外国人の日本語会話能力と日本語の読み書きについて

県内に在住する外国人の日本語会話能力と日本語の読み書きについて、国籍別で回答結果をみると、Q3 で、日本語で「会話ができる」回答し、Q4 で、「ひらがな・カタカナ・漢字ができる」と回答された方で、最も高く回答されたのは、ネパール(23.1%)、次いで、韓国(14.8%)、中国(12.4%)という回答結果になっている。次に Q3 で、日本語で「会話ができる」回答し、Q4 で、「ひらがな・カタカナができる」と回答された方で、最も高く回答されたのは、ネパール(36.7%)、次いで、フィリピン(14.7%)、アメリカ(7.9%)という回答結果になっている。また Q3 で、日本語で「会話ができる」回答し、Q4 で、「できない」と回答された方で、最も高く回答されたのは、フィリピン(40.0%)、次いで、ベトナム(15.0%)、ネパール(10.0%)という回答結果になっている。

次に Q3 で、日本語で「あいさつができる」と回答し、Q4 で、「ひらがな・カタカナ・漢字ができると」と回答された方で、最も高く回答されたのは、ベトナム(48.7%)、次いで、中国(32.9%)、ネパール(7.9%)という回答結果になっている。また Q3 で、日本語で「あいさつができる」と回答し、Q4 で、「ひらがな・カタカナができると」と回答された方で、最も高く回答されたのは、インドネシア(22.4%)、次いで、ベトナム(15.1%)、アメリカ(9.2%)という回答結果になっている。次に Q3 で、日本語で「あいさつが「できない」と回答し、Q4 で、日本語の読み書きが「できない」と回答された方で、最も高く回答されたのは、フィリピン(26.5%)、アメリカ(26.5%)で、次いでベトナム(16.3%)、タイ(16.3%)という回答結果になっている。

次に Q3 で、日本語で「あいさつが「できない」と回答し、Q4 で、「ひらがな・カタカナが出来る」と回答された方で、最も高く回答されたのは、ネパール(42.9%)、次いで、スリランカ(28.6%)、ベトナム(14.3%)、ブラジル(14.3%)という回答結果になっている。また Q3 で、日本語で「あいさつが「できない」と回答し、Q4 で、日本語で読み書きが「できない」と回答された方で、最も高く回答されたのは、インドネシア(27.8%)、次いで日本(16.7%)、スペイン(16.7%)という回答結果になっている。

以上の結果から、特にフィリピンまたはベトナム国籍の方で、日本語での会話や日本語の読み書きができないと答えた方の傾向が強いため、フィリピン国籍やベトナム国籍の方を対象とした、日本語習得支援が必要であると考えられる。また、公共施設や社会福祉施設等におけるフィリピン語やベトナム語による案内ガイダンスや情報提供の需要が高いと考えられる。

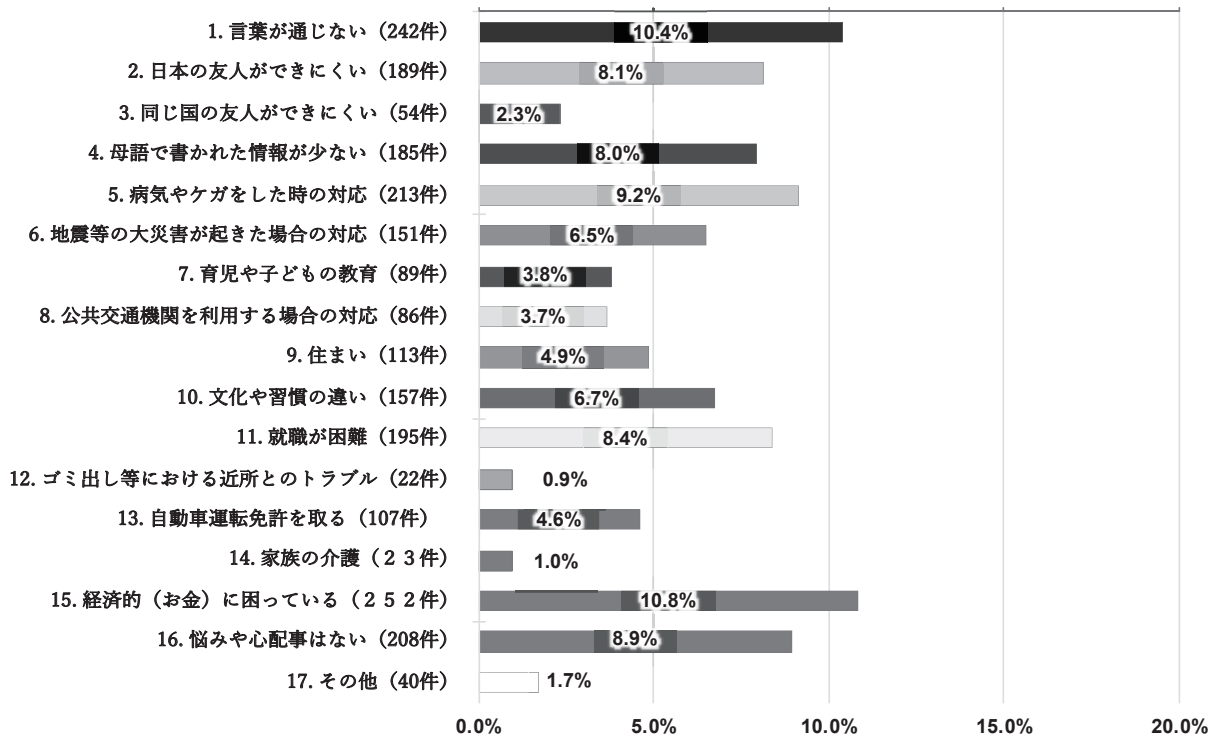
図 1:日本でのコミュニケーション能力(国籍別)

1. 会話できる							
ひらがな・カタカナ・漢字ができる		ひらがな・カタカナができる		できない		その他	
ネパール	23.1%	ネパール	36.7%	フィリピン	40.0%	フィリピン	28.6%
韓国	14.8%	フィリピン	14.7%	ベトナム	15.0%	中国	28.6%
中国	12.4%	アメリカ	7.9%	ネパール	10.0%	ネパール	14.3%
						タイ	14.3%
						イラン	14.3%
2. あいさつができる							
ひらがな・カタカナ・漢字ができる		ひらがな・カタカナができる		できない		その他	
ベトナム	48.7%	インドネシア	22.4%	フィリピン	26.5%		0.0%
中国	32.9%	ベトナム	17.1%	アメリカ	26.5%		0.0%
ネパール	7.9%	アメリカ	9.2%	ベトナム	16.3%		0.0%
				タイ	16.3%		
3. できない							
ひらがな・カタカナ・漢字ができる		ひらがな・カタカナができる		できない		その他	
	0.0%	ネパール	42.9%	インドネシア	27.8%		0.0%
	0.0%	スリランカ	28.6%	日本	16.7%		0.0%
	0.0%	ベトナム	14.3%	スペイン	16.7%		0.0%
		ブラジル	14.3%				

## ②日常生活全般について

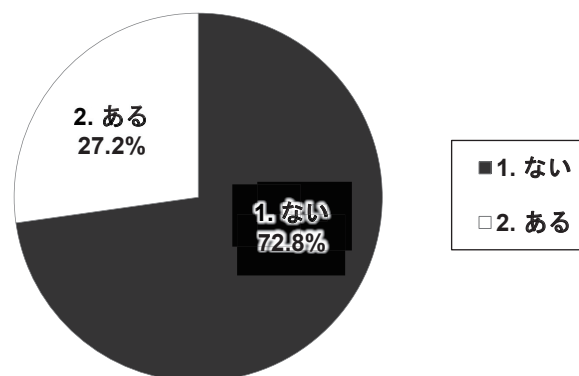
### (1)日常生活での悩みや心配事について(Q5) (複数選択可)

「日常生活での悩みや心配事は何ですか」との質問に対して、「経済的(お金)に困っている」(10.8%)と回答された方が最も高く、次いで「言葉が通じない」(10.4%)、「病気やケガをした時の対応」(9.2%)となっている。(n=1014)



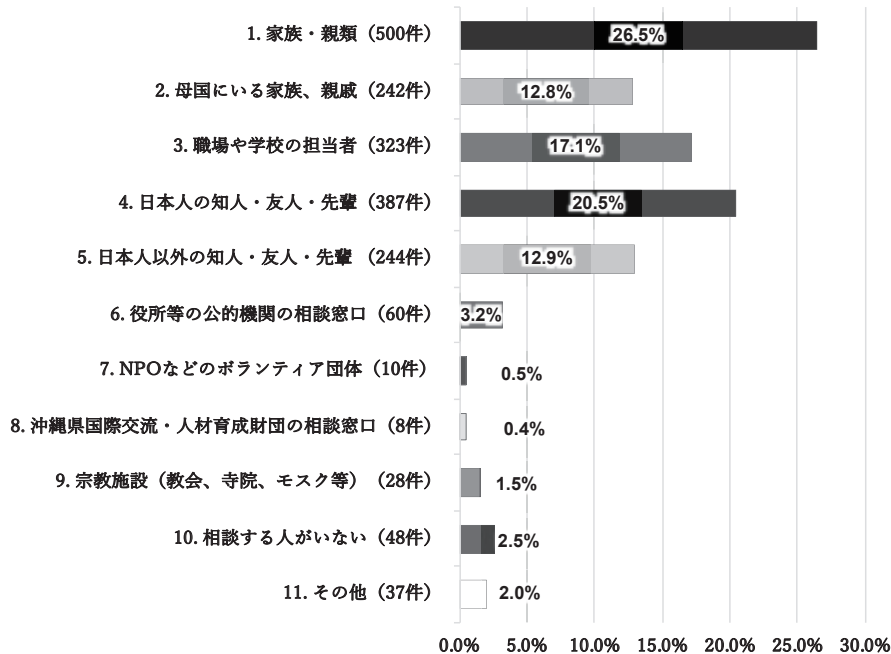
### (2)偏見や差別について(Q6) (1つに○)

「生活の中で、外国人に対する偏見や差別を感じたことがありますか」との質問に対して、「ない」(70.9%)と回答された方が、「ある」(26.5%)と回答された方よりも高い。(n=1014)



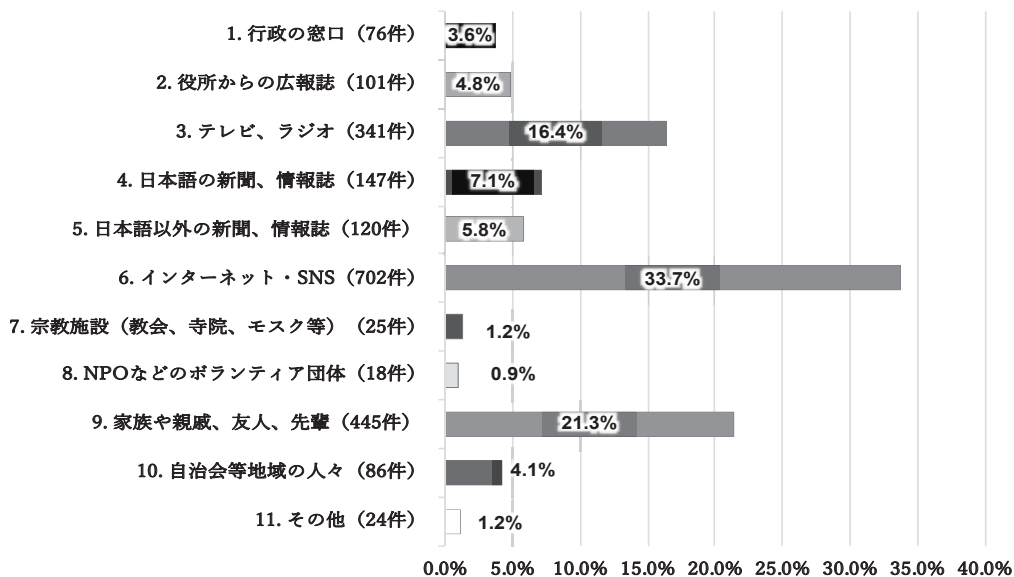
### (3)相談相手について(Q7) (複数選択可)

「困った時に、よく相談する人は誰ですか」との質問に対して、「家族・親類」(26.5%)と回答された方が最も多く、次いで「日本人の知人・友人・先輩」(20.5%)、「職場や学校の担当者」(17.1%)となっている。(n=1014)



### (4)日常生活の情報入手について(Q8) (複数選択可)

「日常生活の情報をよく入手するのはどこからですか」との質問に対して、「インターネット・SNS」(33.7%)と回答された方が最も高く、次いで「家族や親戚、友人、先輩」(21.3%)、「テレビ、ラジオ」(16.4%)となっている。(n=1014)

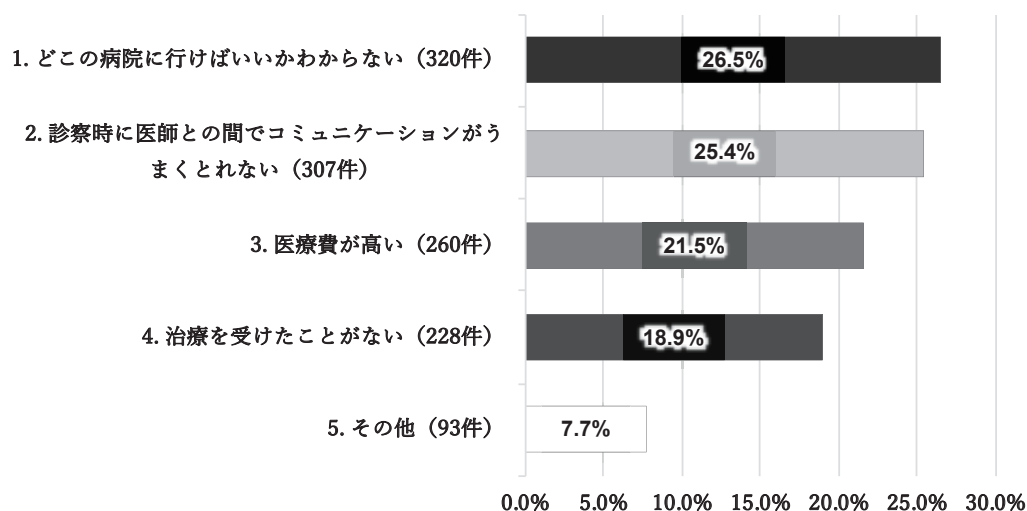




### ③医療・保健などについて

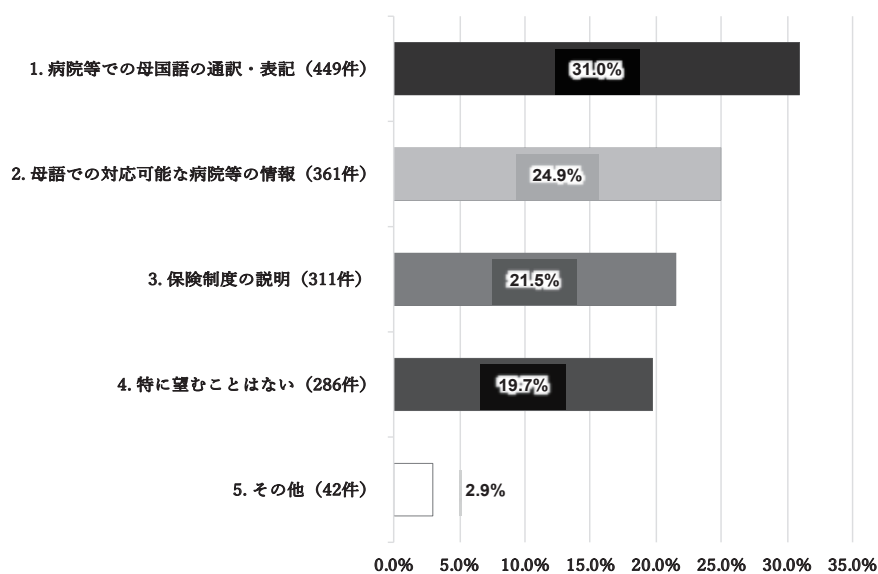
#### (1)病気やケガをして困ったことについて(Q9) (複数選択可)

「病気やケガをした時、困ったことは何ですか」との質問に対して、「どこの病院に行けばいいかわからない」(26.5%)と回答された方が最も高く、次いで「診察時に医者との間でコミュニケーションがうまくとれない」(25.4%)、「医療費が高い」(21.5%)となっている。(n=1014)



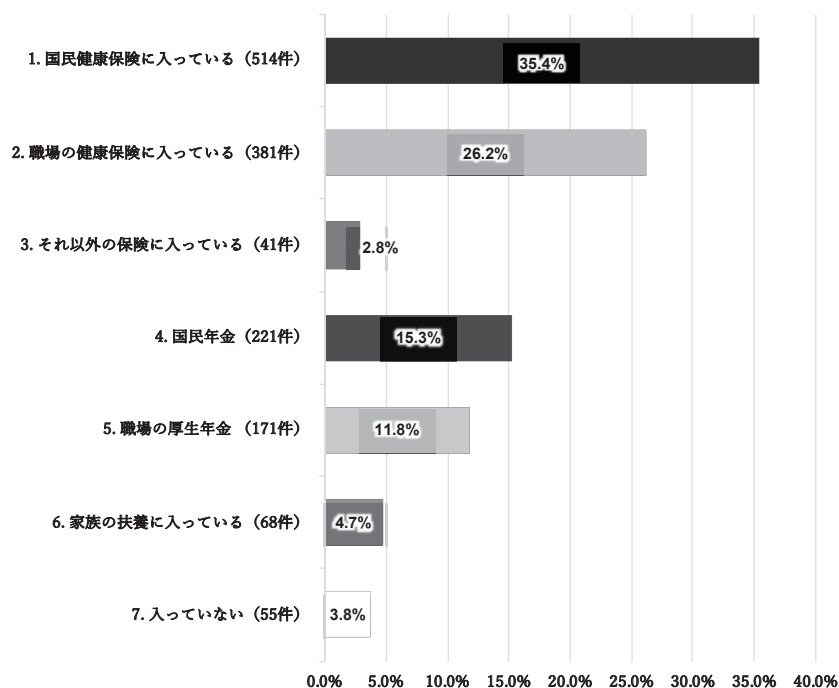
#### (2)希望する医療サービスについて(Q10) (複数選択可)

「どのような医療サービスを望みますか」という質問に対して、「病院等での母語の通訳・表記」(31.0%)と回答された方が最も高く、次いで「母国での対応可能な病院等の情報」(24.9%)、「保健制度の説明」(21.5%)となっている。(n=1014)



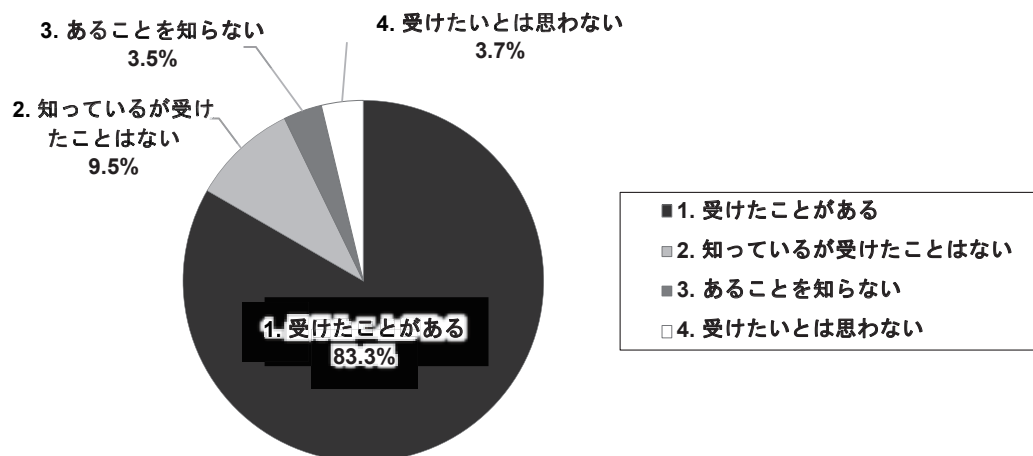
### (3)希望する医療サービスについて(Q11) (複数選択可)

「あなたは次の健康保健または年金制度に加入していますか」との質問に対して、「国民健康保健に入っている」(35.4%)と回答された方が最も高く、次いで「職場の健康保険に入っている」(26.2%)、「国民年金」(15.3%)となっている。(n=1014)



### (4)健康診断について(Q12) (1つに○)

「あなたは健康診断を受けたことがありますか」との質問に対して、「受けたことがある」(83.3%)と回答された方が最も高く、次いで「知っているが受けたことはない」(9.5%)、「あることを知らない」(3.5%)となっている。(n=1014)



## (5)県内における在住外国人の医療・保健サービスの現状

Q 11 で、「健康保健または年金制度に加入しているか」について回答された方が、Q9 で、「病気やケガをした時に困っていること」について、在住外国人の滞在理由別にみると、県内における在住外国人の医療・保健サービスの現状は以下の結果となる。

### ①日本語の勉強のため滞在中の外国人の医療・保健サービスの現状

Q11 で「国民健康保険に入っている」と回答し、Q9 で「どの病院にいけばいいかわからない」と回答された方で、最も高く回答された在住外国人の滞在理由は、「日本語の勉強」(29.5%)、次いで「働くため」(28.1%)、「大学・大学院・専門学校への入学」(16.7%)となっていることから、国民健康保険に加入していても、特に日本語を勉強する目的で滞在中の在住外国人の方は、「病気やケガをした時、どの病院で診察を受けたいのかわからない」と回答されたことから、多言語による、医療機関並びに施設等の情報提供が必要であると考えられる。

次に、Q11 で「国民健康保険に入っている」と回答し、Q9 で「診察時に医師との間でコミュニケーションがうまくとれない」と回答し、「働くため」に滞在中と回答された方が最も高く(25.8%)、次いで「日本語の勉強」(23.7%)、「大学・大学院・専門学校への入学」(15.4%)となっており、国民健康保険に加入していても、特に日本で仕事をする目的で滞在中の在住外国人の方は、日本語の勉強目的で滞在中の在住外国人同様、「病気やケガをした時、病院で診察を受ける時、医師との間でコミュニケーションがうまくとれない」と回答されたことから、働くために滞在中の在住外国人の方に対しても、病院等における在住外国人向けの医療サービスの向上のため、多言語による医療サービスの提供、例えば、医療通訳士などを電話またはインターネット回線で繋ぎ、医師の診断中に在住外国人の母語で診察内容等に関する情報提供するなど、また医療通訳士サービスが受けられる病院等の周知を多言語で行うことが必要であると考えられる。

また Q11 で「国民健康保険に入っている」と回答し、Q9 で「医療費が高い」と回答された方で、Q2 の滞在理由について「日本語の勉強」で来日したと回答された方が最も高く(28.9%)、次いで「働くため」(26.9%)、「大学・大学院・専門学校への入学」(20.4%)となっている。その結果、国民健康保険に加入していても、日本語の勉強をする目的で日本に滞在中の在住外国人、そして、働くために日本に滞在中の在住外国人の方は、病院で診察を受ける時、「医療費が高い」と回答されたことから、国民健康保険に加入していても、自己負担する医療費が高いと感じるため、医療サービスを受けていない傾向が高いことが示された。新型コロナウイルス感染拡大に伴い、金銭的な問題を抱える在住外国人が Q19 新型コロナウイルスの影響についての回答結果で、高くみられることも合わせてこの結果を改めて考慮すると、在住外国

人に対する尚一層の経済的な医療支援が必要であると考えられる。

また、Q11で「国民健康保健に入っている」と回答し、Q9で「治療を受けたことがない」と回答された方で、「日本語の勉強」のため来日したと回答された方が最も高く(30.5%)、次いで「働くため」(27.4%)、「大学・大学院・専門学校への入学」(14.7%)となっている。

国民健康保健に加入していても、日本語の勉強のため在住している外国人の方、そして働くために滞在している在住外国人の方が治療を受けたことがないと高く回答された結果を Q9のその他の回答結果も踏まえ、総合的に考慮すると、国民健康保険に加入していても、病気やケガをした時に、利用できる医療機関の把握が出来ておらず、またあるいは経済的困難な理由により、居住地内の医療機関等で治療を受けたことがない理由から、医療機関で治療を受けたことがないと回答された傾向が高いと考えられる。そのため、在住外国人が在籍している日本語学校、大学、大学院ならびに専門学校、また在住外国人の職場等で、多言語で診察が受けられる医療機関等の情報提供、また在住外国人に対する経済的医療支援等について、在住外国人の母語で説明する機会を積極的に設けることや、または、各市町村にて同様の内容の相談窓口などを設けるなどの取り組みが必要であると考えられる。

## ②日本で働くために滞在している外国人の医療・保健サービスの現状

Q11で「職場の健康保険に入っている」と回答し、Q9で「どの病院にいけばいいかわからない」と回答された方で、「仕事のため」来日したと回答された方が最も高く(46.8%)、次いで「日本語の勉強」(17.0%)、「職業技能の取得」(11.1%)となっていることから、職場の健康保健に加入していても、特に日本で働くために滞在している在住外国人の方は、「病気やケガをした時、どの病院で診察を受けたいのかわからない」と回答されたことから、多言語による、医療機関並びに施設等の情報提供が必要であると考えられる。

また Q11で「職場の健康保健に入っている」と回答し、Q9で「診察時に医師との間でコミュニケーションがうまくとれない」(40.3%)と回答された方が、Q2の滞在理由について「仕事のため」と回答された方が最も高く、同じく Q11で「職場の健康保健に入っている」と回答し、Q9で「医療費が高い」(49.0%)と回答された方が、同じく Q2の滞在理由について「仕事のため」来日したと回答された方が最も高い結果になっている。

次いで、Q11で「職場の健康保健に入っている」と回答し、Q9で「治療を受けたことがない」と回答された方が、Q2の滞在理由について「仕事のため」来日したと回答された方が最も高く(57.4%)という結果から、職場の健康保健に加入している在住外国人の方でも、日本の医療機関で治療を受けたことがないと高く回答された結果になっている。

上記の回答結果を総合的に考慮すると、職場の健康保険に加入していても、病気やケガをした時に、利用できる医療機関の把握が出来ておらず、また経済的困難な理由により、居住地内